



消防団
第1分団

森元 秀夫 さん

灘のヒーローさんであらう

執筆者 第一分団 分団長 中本 榮市

今回は、わが灘消防団第1分団のヒーロー、森元秀夫さんを紹介します。森元さんは、阪神・淡路大震災以前は、楠ヶ丘町で銭湯を経営されていました。昔のお風呂屋さんは、燃料に主として材木を使用していたため、釜のそばに大量の材木を山積みにして、それをカットして少しずつ釜にくべていました。それを見た消防団員が、「もし誰かが、この材木に火を付けたら大変なことになる」と、風呂屋のご主人に注意したところ、どういふわけか、消防団員と風呂屋のご主人は意気投合し、ご主人は消防団入りを快く引き受けてくれ

ました。そのご主人こそ、今回のヒーロー、森元秀夫さんなのです。

時代が変わり、昨今は、温泉と見まがうばかりの銭湯が、町のあちこちに見られますが、森元さんの経営していた銭湯は、その先駆者の存在で、市街地にありながら、サウナは言つに及ばず、露天風呂などとともに、毎日お湯の色が変わるように入浴剤を工夫していました。温厚な森元さんの人柄もあって、尼崎や姫路からわざわざやってくるお客さんもいる、まさに「スーパー銭湯」だったわけですね。

残念ながら「スーパー銭湯」は阪神・淡路大震災によって、自宅とともに全壊。他の事情も重なり、やむなく廃業に至りましたが、銭湯にはボイラーや循環式ポンプなどの大掛かりな設備がありますし、重油などの危険物も取り扱います。消防団活

動においてもポンプで大量の水を扱い、

燃料や危険物

への配慮が必要

な点など

共通点が多く

見られます。

森元さんは、

銭湯経営の経験を生かし、消防団の中にあっても、ポンプの取り扱いの指導などで中心的な役割を担っておられます。「火」と「水」が取り持つ縁でしょうか、今や森元さんは、灘消防団にとつてなくてはならない人材となっております。

現在森元さんは、西区の食品加工機器製造会社に勤務されており、消防団活動とともに活躍されています。私は、震災で全壊した銭湯の煙突だけが最後まで倒れずに残っていた光景と重ね合わせて、粘り強い森元さんの底知れぬパワーに、今後の活躍を期待せずにはおられません。

